

# 乗務員運用合理化

# 11月15日千葉末実施に激怒する「本部」反動分子



80.11.19  
No.586

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五六(公衆)三三三二七二〇七

## ますます本性を暴露する、合理化の尖兵・ 当局の手先「本部」革マル反動分子

\*\*\*\*\*

動労千葉は、乗務員運用合理化十一月一日強行実施粉砕の勝利をひきつぎ、国鉄当局・「本部」反動分子が結託した十一月十五日強行実施策動を完膚なきまでに粉砕した。この動労千葉の闘いの前進に驚愕し恐怖した「本部」反動分子は、自からの裏切りと屈服をインペイせんがためにまたまた当局に「十一月十五日妥結」実施できないのは約束違反だ」とどなり込む醜態を演じている。このようにもはやなりふりかまわず、乗務員運用合理化の尖兵と化して、国鉄労働者と職場を当局に売り渡し動労千葉破壊に奔走する「本部」反動分子を断罪し、国鉄労働運動から一掃しなければならぬ。

\*\*\*\*\*

### 「千葉をおとせ」と当局をけしかけろ

すでに本紙上でその都度「本部」反動分子の裏切りとその実態行為を暴露してきた。しかもこんにちに至りたつては、あまりにも醜態なまでの国鉄当局と「本部」反動分子のゆ着ぶりが誰の目にもあきらかになるにつれて、動労千葉はもとより闘う国労組合員の間からも怒りの声が湧きあがっている。

その怒りの理由の第一は、乗務員運用合理化裏切りの紋章である「本部」反動分子の「協定外の要員はき出し」という裏切り路線とそれにもとづく「千葉が十一月一日に必ず実施すること」を条件とした動労東京の「九月裏切り妥結」である。

第二に、動労千葉の十月総決起と、国労共闘として闘いとられた東中野事故闘争の高揚をもって、千葉鉄山反動局長の「政治生命をかけて十一月一日強行実施する」という異常なまでの攻撃を粉砕するや、完全にアテがはずれてあわてた「本部」反動分子が「千葉は、なぜ十一月一日に実施しなかつたのか」と当局にあたり散らし「千葉を早くおとせ」と当局をけしかけていること。

第三に、実は、国鉄当局と「本部」反動分子が結託して目指していたところの「十一月十五日強行実施」策動が動労千葉、国労千葉の職場からの共闘によって突き崩されるや、またもや「千葉が実施しない理由を明らかにせよ」とばかりに当局へ鉄労並みにどなりこみ、「千葉の外周区も提案通り実施しろ」と言いだすにいたつたからである。

このように、自からの裏切りと屈服をインペイするために、当局と結託し、闘う労働者の背後から襲いかかる「本部」反動分子の反労働者の行為は、動労千葉、国労千葉をとわず闘う者の怒りと

怪蔑のまよになっている。

### 「十二月一日実施」策動を粉砕せよ!

十月総決起の力を堅持し、更に意気高く闘いぬいているわが動労千葉の全組合員の一丸となつた十一月総決起の力は、当局・「本部」反動分子一体となつた十一月十五日妥結強行策動を、今ふたたび実力で粉砕した。

このことによつて、国鉄当局は「十二月一日実施」策動がまたもや破産しかねない事態を感じとり、恐怖し、より一層の焦りから攻撃を激化してきている。

全組合員のみなさん。

このように国鉄当局と「本部」反動分子が結託し執ようにしかけてくる乗務員運用合理化攻撃の最大の狙いが、八一・三ジェット決戦を闘わんとする動労千葉の組織破壊を狙つたものであることを再度とらえかえし、全力で「十二月一日実施」策動を粉砕すべく闘い抜こう。

## 年末手当で申し入れ

11月12日  
動労千葉申第十四号

1. 職員、準職員については、基準内賃金の三ヶ月分一律一八〇、〇〇〇円を加えた額を支払うこと。
2. 臨時雇用員については、賃金日額の一〇〇日分を支払うこと。
3. 休職中及び停職中の職員であっても他の職員と同様に支払うこと。
4. 支払日については、十二月五日とする。